

連載第6回

京大植物園観察会

■第43回 京大植物園観察会

決まり次第ホームページでお知らせいたします。

第40回観察会レポート 2006年7月7日(金) 12:05~55 曇り
 テーマ「植物園の苔観察ーしゃがんでこそ見える世界もあるー」
 案内人: 秋山弘之(兵庫県立人と自然の博物館)・大石善隆(京大農学部)



ヤワラゼニゴケ▲

コケ植物とはどんないきものなのでしょう

心配していた雨も降らず、当日は曇りで蒸し暑い日となり、まさにコケ植物観察にはうってつけの日和でした。植物園の外では多少とも風が吹いていたのですが、木立の中は無風に近く、より湿気を感じさせます。風が吹かないのがよく発達した森の特徴なのですが、参加者の皆さんにはまさしくそれを実感していただけたのではないかと思います。

そんな薄暗くて風のない、湿気のこもる森の中に、おどろくほどたくさんの種類のコケ植物が生えていました。シダや花の咲く植物とくらべたとき、コケ植物の大きな特徴は、まず根がないこと、根から吸い上げた水や葉でつくった養分を体中に行き渡らせる維管束がない

ことなのですが、その他にも孢子で増えることや、精子が泳いで卵までたどり着かなければならないので、受精にはかならず水が必要ということもコケ植物がもつ特徴としてあげることができます。これらの特徴から、コケ植物は地面から離れて暮らすのはなかなか容易ではなく、それが理由で背丈がずいぶん小さいままなのです。日本に1600種もあるコケ植物ですから、なかにはこの制約を振り切って生活の場を広げたものもあります。木の幹を生活の場を選ぶことで地面から離れて暮らしている、つまり着生という生活様式を発達させた仲間たちです。

コケと聞いてまず思い浮かぶのはスギゴケ、もしくはゼニゴケという方も多いと思います。植物園のガラス温室のある一角には、このゼニゴケが雄株・雌株そろって群生しています(ゼニゴケは雌雄異株なのです)。受精が終わり、ちょうど今が黄色い孢子体が雌株の先についている時期で、観察会の時にも見ることができました。実は雄と雌がそろって生えていることはあまりなく、普通はどちらかだけの、ちょっとかわいそうな群落になっているのです。また、植物園内の温室付近ではRDB種として指定されているヤワラゼニゴケの生育も確認できました。本種は、以前から京都大学構内での生育が確認されており、1991年に京都大学構内で採集された本種の標本が京都大学標本庫(KYO)に収蔵されています(この標本について、興味深い話が「苔の話」(中公新書)に書かれています)。本種は今回の生育確認場所のように植木の圍場や植物園の温室でも観察されることも多いようです。



コバノチョウチンゴケ▲

はじめてコケ植物を観察される方が多かったので、今回はじっくりゆっくり観察することを主眼としました。そのため、皆さんに手にとって見て頂いた種類は10種弱(コツボゴケ;コバノチョウチンゴケ;ハイゴケ;タチゴケ;ゼニゴケ;オオサナダゴケモドキ;ツクシナギゴケモドキ;コモチイトゴケ;ヒロハツヤゴケ)でしたが、一度にたくさん覚えようとしてもかえって記憶には残らないものです。1時間弱の観察会としては適当な数だったように思います。これを機会にぜひ、道ばたや街路樹の幹に目を向けて頂ければ幸いです。

☆植物フェノロジーリスト

開花: ハンゲショウ、ハマユウ、ムラサキツユクサ、オオハンゲ、ハス、ヒツジグサ、ヤブミョウガ、アメリカイヌホオズキ、バショウ、オオバギボウシ (以上、草本)、ムクゲ 結実: ヤマコンニャク(以上、草本)、ハゼノキ、チャノキ、ロウアガキ、ウメモドキ(?), ヒイラギナンテン

フェノロジー・レポート: 大石高典(京都大学理学研究科生物科学専攻動物学系)

☆昆虫リスト

ウスバキトンボ、モンシロチョウ、ルリシジミ、センチコガネ、マメコガネ、カナブン、シオヤアブ

残念ながら記録できたのはこれだけでしたが、クヌギの樹液に虫が集まっているのを見ることがで

きて良かったです。

昆虫レポート: 吉本治一郎(京都大学大学院農学研究科昆虫生態学研究室)

京大植物園を考える会 <http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/>
京大植物園のブログができましたので覗いてみてください。
京大植物園TODAY (<http://blog.goo.ne.jp/bgfanclub/>)

[|ひとつまえにもどる|](#)

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..